

編集後記

20年ほど前のこと、身内がインドに住んでいてデング熱にかかったことがある。それまでは聞いたことがなかった病気で、てんぐねつ？なんで天狗？などと不思議に思った記憶がある。遠い、暑い国の病気と思っていたのに、今年の夏、首都東京の公園で蚊に刺された人びとが感染した。9月も過ぎようというのに、いまだにあらたな感染者が見つかるらしい。この特集の企画をたてて原稿依頼をした段階では、まだエボラもデング熱も話題にはなっていなかった。疫病との戦いの最前線で奮闘しておられる伊藤さんや西浦さんには、ご多忙のところ協力いただき感謝している。

このお二人のお話のあるシンポジウムで聞く機会があった。それまでは、ウイルスといえば生命体にとっての脅威、生来の悪者というイメージしかなかったが、大半のウイルスは宿主と共生関係を保ちつつ、ともに仲良く進化してきているらしい。種の保存になくてもはならないウイルスもいるのに、ちょっと間違った宿主に感染してしまうドジな奴らのせいで、「悪」のレッテルをはられているウイルスに憐れみを感じるようになった。

(山中由里子)

●表紙：疫病よけの護符として用いられた版画
 地域：ネパール 民族：チベット
 標本番号 H0079124

次号の予告

特集

おもちゃ いまむかし

※みんぱくウィークエンド・サロンの情報は、13ページに移りました。

**みんぱくをもっと楽しみたい
 人のために—会員制度のご案内**

国立民族学博物館友の会

本館展示の無料入館や特別展示の観覧料割引にくわえ、『月刊みんぱく』や会員機関誌『季刊民族学』などの定期刊行物や、毎月の友の会講演会、セミナーなどを通して多様な文化の情報を提供しています。

みんぱくフリーパス

1年間、本館展示へ何度でも無料で入館いただけます(特別展示は観覧料割引)。他にも、みんぱくを楽しむための特典がいっぱいあります。

国立民族学博物館キャンパスメンバーズ

みんぱくと大学等教育機関との連携を図り、文化人類学、民族学にふれる学びの場を提供することを目的とした会員制度です。

詳細については、一般財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
 (電話06-6877-8893/平日9:00~17:00)

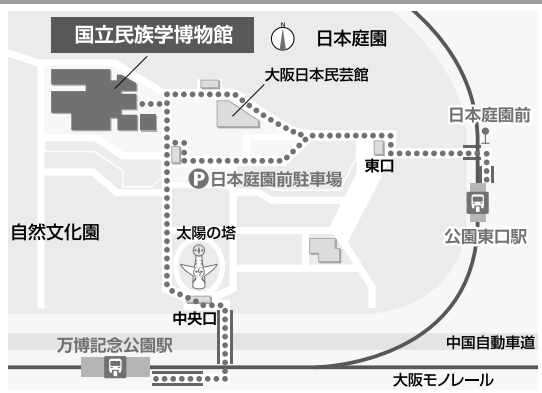
月刊みんぱく 2014年11月号

第38巻第11号通巻第446号 2014年11月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 **国立民族学博物館**
 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
 電話 06-6876-2151

発行人 池谷和信
 編集委員 山中由里子(編集長) 櫻永真佐夫 河合洋尚
 庄司博史 菅瀬晶子 丹羽典生 丸川雄三
 編集アドバイザー 山内直樹
 デザイン 宮谷一孝 長岡綾子
 制作・協力 一般財団法人千里文化財団
 印刷 能登印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
 *本誌掲載記事の無断転載を禁じます。



交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅から近鉄バスで「日本庭園前」下車、徒歩約13分。
- 乗用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんぱくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

みんぱくフェイスブック

<http://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

みんぱくツイッター

<http://twitter.com/MINPAKUofficial>